



## 知恵 知っとこ生活の知恵

暮らしのアドバイス No.126

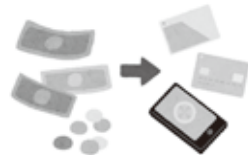
ファイナンシャル 仲西 康至 (音江町在住)



クレジットカード会社は、カードを発行するのではなく、スマートフォンにアプリを入れた決済のサービスを始めるなど、「カードレス」への動きが活発化しています。背景には、若年層がカード決済よりも、スマートフォンなどによる電子マネーの決済に慣れているからです。そのため、最近の若者は、財布からカードを取り出す手間を嫌がる人が多いといわれています。

また、クレジットカードの安全面の問題が指摘されています。クレジットカードの表面に記載された、会員番号や有効期限がのぞき見されて、不正に利用されるケースがあるからです。特に、海外の観光地などでは、ショッピングの際に店員に渡したクレジットカードが悪用されるトラブルがあります。クレジットカード会社としても、カード

## 電子マネー化と 親子でマネー教育



の発行費用(1枚当たり1,000円程度)が抑えられ、カードの郵送を待たずとも、即座にサービスの提供できるメリットがあります。

こうした、若年層の電子マネーの浸透は、子供への低年齢化が進んでいます。塾に通う小学生の子どもには、交通系の電子マネーを親が持たせます。コンビニなどで使えるために、流通系の電子マネー(nanaco、楽天Edyなど)や、スマホ決済の〇〇Payなどを与える親も増えています。

こうした子どもがキャッシュレス決済サービスを利用することに慎重な声がある一方で、利用履歴が記録される利点もあります。利用状況を親が把握出来れば、使い過ぎなどのトラブルも防ぐことが出来ることから、親としても安心です。

日本のマネー教育の遅れは、少なくとも30年以上前から指摘されています。昨今では、お小遣い帳を付ける子どもは少なく、お小遣いそのものを渡さない親も多いといわれています。キャッシュレス社会に向けて、子どもに対する教育が議論されていますが、電子マネーの利用履歴を見ながら親子で話すことも、マネー教育につながるのでしょうか。